

街かど人物館

超新星100個発見

星が進化する最後に爆発して輝く現象を「超新星」と呼ぶ。豆腐子メーカー「豆の板垣」(山形市)社長の板垣公一さん(67)は国内の最多発見記録保持者。このほど100個目の超新星を見つけた。「今後も体力、気力が許す限りやりたい」



最多記録まだまだ伸ばす

追いかけていたが、明け方や夕方わずかな時間しか見られず、仕事を抱えながらの観測は難しかった。そこで2001年に超新星探しに方針転換した。

内陸部の山形市は晴天率が低く、とりわけ冬季は雪でほとんど晴れない。そろした木利を補うため長年観測してきた蔵王山麓のほか、10年前から栃木県高根沢町にも私設観測所を設け、2カ所体制で星探しを続けている。蔵王からパソコンで高根沢の観測機を遠隔操作するやり方だ。

「とにかくたくさん星を見ること」が極意とか。晴れた夜は少し仮眠を取る程度で夜通し空を眺める。「偶然見つけた星が宇宙の解明に役立てば、アマチュア天文家賞に尽きる」と笑顔で話す。

「メガネを替えたら、天気予報のニュースを自分の目で見られるようになった」。脳梗塞で寝たきりになり、メガネを買いに行けなかった70代の男性は涙を流して喜んだ。

「マリーのめがね」の屋号で高齢者向けのメガネの訪問販売を手掛けている宇都宮市の島田りえさん(46)は、こうしてお客様役に立てるからこそ、訪問販売を続けている。



メガネ訪問販売 高齢者の生活助けたい

「こうと思つ」と話す。依頼があると、視力測定などに必要な機器を積んだワゴン車「マリー号」で顧客の自宅や介護施設に駆けつけ、メガネの調整と製作を行う。

起業した直接のきっかけは助けていたメガネチェーンのリストラだった。「介護が必要な自分の父親はメガネ店に出向くのも大変。ほかの高齢者や体が不自由な人はどうしているのだろうか」。そんな疑問からメガネの訪問販売を思いついた。

高齢者の場合、視力が低下していることに本人も気づかない場合がある。助けがないと歩けないと思われていた人がメガネを新調した途端に歩き始めることも。「普段はなにがしろにされがちの目の大切さを訴えていきたい」

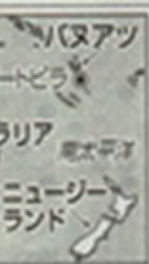
災害弱者 逃げ遅れ防げ

仙台市で開催中の国連防災世界会議では、障害者や高齢者ら「災害弱者」の支援体制づくりが焦点の一つになっている。東日本大震災では自治体の警報が行き届かなかったり、避難誘導が不十分だったりするケースもあり、多くの人が逃げ遅れて命を落としたり。関係者は「災害弱者の現状を把握し、支援策を積極的に提言していきたい」と話している。(2面参照)

現実訴え くり焦点

「みんなに迷惑をかけるから、避難所には行けなかった」。国連防災世界会議の公開イベントで14日に上映されたドキュメンタリー映画「逃げ遅れる人々」の一場面。震災時の混乱、避難所でのストレス、仮設住宅の不

援始動 災か



らかにしてアツの人の約13万人は「過去の教訓を将来起こりうる災害時に生かさないといけない。災害弱者の支援体制の構築を洗い出し提言として発信したい」と話している。

らかにしてアツの人の約13万人は「過去の教訓を将来起こりうる災害時に生かさないといけない。災害弱者の支援体制の構築を洗い出し提言として発信したい」と話している。

らかにしてアツの人の約13万人は「過去の教訓を将来起こりうる災害時に生かさないといけない。災害弱者の支援体制の構築を洗い出し提言として発信したい」と話している。

の大塚商会

私用ハイヤー代 NHKに請求 柳井会長、監査委員調査

NHKの柳井勝人会長が1月2日、私的にハイヤーでゴルフに出かけた際の乗車代金がNHKに請求されていたことが15日、明らかになった。柳井会長は後日、代金を支払ったという。NHK経営委員で柳井氏がNHKに請求した金額を調査し、関係者に通報で発覚。お金を当日NHKがハからの請求金を処理。で払う」とされるが、内部通報は

SPDR
スバイダー

揺らぐ時代に確かなものを
Precise in a world that isn't.